

令和2年度 市民意見交換会（経済建設常任委員会）

《令和2年11月10日》

意見交換の相手団体：御津町新舞子観光協同組合

意見交換会のテーマ：コロナ禍における営業持続と地域観光について

主な意見（一部抜粋）

【意見交換の主な内容】

- ①営業の現状報告
- ②” たつのおもてなしキャンペーン”の継続について
- ③観光施設の整備について
- ④地域観光の発信について



【現状、今後の課題・問題点は以下のとおり】

- 御津町新舞子観光協同組合は、①潮干狩り、②海水浴、③宿泊3つの柱で成り立っている。13軒あるが、各宿、店等により、学生や一般客などターゲットを特化している。
- 御津体育館利用を兼ねた団体の宿泊者・合宿等での状況について
高校生の部活動、大学生の運動サークルが多い。連泊の場合、練習場の確保が大切であり、確保できない場合キャンセルが生じる。また、夏は屋内で活動ができること、施設が徒歩圏内で在ることが条件となる。売り上げの半分が合宿利用という宿もある。
- おもてなしキャンペーンについて
年配者の利用が多く非常に好評であり、助かっている。できれば継続してほしいが、難しい場合は合宿補助についても考えてほしい。他県では学生に一人500円・1000円の補助を出しており、そこがポイントになっている。学生はまず補助があるかとの問い合わせがあり、旅行業者も同様である。
- 組合としての秋・冬に来ていただく手立て方策について
学生は通常10月までであるが、コロナ禍で、密にならない公園として浜に来る家族連れが多くなった。朝夕、干潟の写真撮影にも、多いときで200人くらい訪れている。美しい干潟を守るため、組合で海岸清掃をしているが、公園のインフラ整備もお願いしたい。

県が作成した西播磨サイクリングロードに新舞子も入っており、サイクリングで立ち寄られるお客様もある。要望になるが、最も見晴らしのいい海岸近くの公衆トイレが、古い昔のままであるため、このトイレの改修をしてほしい。

- 長いスパンで、新舞子へ新たな客を呼び込むことを考えて、旅行業界やマスコミへのPRについて

学校の潮干狩りが激減して、若い世代は、新舞子で潮干狩りができることも知らない。貝掘りの楽しみや料理・宿泊を発信していくということが大事であると認識しているが、どのように発信していいのかわからないのが現状である。外国人対応もできていない。

国のGoToキャンペーンは、宿泊施設が自分でネットで登録するというシステムだったため、手続きができなくて登録をあきらめたという話も聞いた。国もデジタル庁の推進を図っている。SNSでの発信も含め、デジタル的なアドバイス、サポートをお願いしたい。

《令和3年1月20日》

意見交換の相手団体：たつの市デマンド交通運行共同体

意見交換会のテーマ：デマンド交通運行によるタクシーへの影響について

主な意見（一部抜粋）

【現状、今後の課題・問題点は以下のとおり】

・デマンド交通運行事業が始まって3年になるが、予想以上にタクシー事業の経営を圧迫している。一番の問題は、乗務員が離れていくことである。乗務員の賃金は売りに上げに直接左右される。



・タクシーの待機時間は就業時間であり、休憩ではないため、運営会社は売りに上げが最低賃金を割らないよう最少人数で回そうとする。その結果、利用が集中する朝夕の時間帯に、タクシーが足りないという状況にもなる。

・タクシーに乗ると 2,000 円を超えるエリアでも、デマンドでは 200 円で行ける。この運賃格差は、いくら経営努力をしてもどうにもならない。

・デマンドが便利になればなるほど市民は喜ぶが、反対に民間タクシー業者を圧迫してしまう。利用回数制限や利用料金の値上げなども必要ではないか。タクシー初乗りが 650 円からして、デマンドの利用料金は 500 円が適正だと思う。

・区域外運行の要望が多くあるが、デマンドは 1 時間に 1 回、往復運行しており、区域外運行をすると、時間内に帰ってこられず、他のお客さんを断ってしまう可能性があるため、物理的に不可能である。

・タクシーチケットは非常に助かっている。コロナ禍でチケットを増刷された分、利用枚数も増えている。

・デマンド料金の支援をされていたが、もともと 200 円で利用できるので、そこに補助する必要はないと思う。その部分の予算をタクシー利用券の方に振り分けていただくなど検討してほしい。

・タクシー事業の IT 化については、アプリ配車とかキャッシュレスの導入などがある。アプリ配車は、都市部でのみ導入されており、近隣では姫路市の需要によって、周辺地域への今後の展開が決定されると聞く。またキャッシュレス機器はタクシーの台数分揃えなくてはいけないので、なかなか普及が進んでいない。

・デマンド運行は、地域の足として、今後も責任をもって継続させていただきたいが、一方で、経営も成り立たせなくてはいけない。タクシーの需要を喚起できるような部分のご支援を賜りたい。